

令和6年度中井町地域懇談会 開催結果

日 時	令和7年3月21日(金)午後7時～午後8時35分
場 所	農村環境改善センター 2階 研修室
テーマ	新たな生涯学習施設の利活用と町ぐるみの人材育成 —館から環へ—縮絨のまちづくりとこれからの人づくり
参加者	10 人

1. 開会
2. 町長あいさつ
3. 町長より町の生涯学習施設の検討状況、今後の展望等について説明(説明資料参照)
4. 質疑応答
5. 閉会

No.	質疑内容	回答内容
1	説明の中で、生涯学習施設の建設場所について、郷土資料館の周りとは旗地が予定地になっているが、全面に作るのか。	敷地面積を大きくする意図も含み、県道に面した旗地を加えた敷地設定とした。 基本構想、基本計画、そして実施要項を各事業者が読み取って提案を出しており、プロポーザルの中では、旗地についても活用する案を提示してきた事業者もあったが、質疑ではそれを否定するのではなく、そうした意図を確認しており、それぞれ一理あったと考えている。 今回の選定の中では、建物はあくまで郷土資料館とその周りを予定し、旗地と現在の公用車駐車場のあたりは、ランドスケープ的な視点で広場などにする案となっている。
2	プロポーザル当日に参加することができなかったがどのような意見が出たのかなど内容を知りたい。	町ホームページや note というブログサービスに当日の様子が分かる記事が掲載されているので、そちらをご覧ください。
3	私は、図書館がほしいと思っており楽しみにしている。 わいがやサロンの中では、参加者の中にも専門的な知見を持つ人もいて、運動のできるホールでは床の振動が楽器によくなかったりするなどの話があった中で、今回の計画でどこまで検討されているのか。 町民のみんなの想いになるべく実現できるような施設建設を望む。	今回の提案では、基本構想、基本計画、そして実施要項で町が提示した条件などを限られた時間の中でそれぞれの事業者がくみ取って提案してもらっている。 今回選定した事業者は、今後町の中に住み、取り壊しまでの間は郷土資料館に常駐したりしながら町民に寄り添って計画を進めていく、そうした部分がこれからの公共建築であり、そこを評価されたところもある。 わいがやサロンには、4月15日から始まり、最初に審査委員長よりなぜこの事業者が選定されたかの説明を

		して、設計に向けたワークショップなども行いながら、引き続きみんなで意見を出し合い進めていく。
4	当初から、わいがやサロンに参加をしており、現在のほたるの家が災害警戒区域に指定されていることから、生涯学習施設の中に場所を移し、障がい者が働いたり活動できるスペースができないのかなど意見を出してきたが、今回のプロポーザルでは、どこの業者も提案していなかった。 全体的にみんなから出た意見があまり反映されていない気がする。	わいがやサロンでの意見がどのように反映されているかは、改めて事業者を確認することもあるだろうし、そうした意見がここで出されたことは早急に伝えたいと思う。 市街化調整区域に建設するため、建設条件の縛りがある。その中でどのようなものを取り入れられるか今後設計業者を含めて進めていく。
5	体育館は、学校施設を使用することができるので、舞台関係の使用で進めてもらいたい。500席の観客席は必要ないのではないかな。	500席という数字については、基本構想で「スタンディングを含め最大で500人収容できる」という表記はあったかと思うが、席数としては提示されていなかった。 先ほどホールの揺れが楽器によくないという話もあったが、今は様々な技術もあり、いろいろな提案がされるだろう。その辺りは、わいがやサロンなどで意見を聞きながら事業者と進めていきたい。
6	わいがやサロンの中では、それぞれが自分の欲しいものと他の人が欲しいものの妥協点を探しながら、かなり具体的にどのような施設にするかという計画になっていたが、今回のプロポーザルでは全く違う提案がされていて、どのあたりにわいがやサロンの意見が取り入れられるのか。	先ほどもでたが、今回のプロポーザルでは、皆さんの意見を入れた基本計画を、それぞれの事業者が読み取って提案をしてもらっている。 中には、設計者を選ぶということで、具体的な図面などを作らずに、あり方の説明だけを提案した業者や、自社の方針を説明し、どのように町の基本計画に寄せていくか、という提案をした事業者もいた中で、今回は具体的な案を提示した5社が最終まで残っている。 今回のプロポーザルの進め方等はすでにモデルケースといわれているが、今後の進捗は、わいがやの中で皆さんに提示、説明しながら進めることになる。
7	以前、わいがやサロンで視察に行った図書館は、図書館だけで50億円で、ほとんど防衛省の補助金でできた、という話だったが、複合施設で、提示された予算で、どのように進めていくのか。	50億円という金額については、正確に記憶しておらず定かではないが、視察先は、9割が防衛省からの補助金で、また、新規建設ではなく改修であったり、市街化区域などの違いもあったりと、条件も異なるので費用については何とも言えないところではある。 今回の生涯学習施設は、公民館として建設することで、4割程度の補助も受けながら、市街化調整区域でも申請無しで建設できることになった。